

吉澤 實氏のご功績

大和田囲碁同好会 成田 滋

2022年11月5日の夕方、「吉澤さんという方から電話よ..」と家内に呼ばれました。出てみると、吉澤實相談役のお内儀でした。「主人が昨日亡くなりました」というのです。お元気そうなお声のなかに、悲しみを押し包むようなご心情が伝わってきました。日頃、吉澤氏が奥様をして「門外不出」とおっしゃっていたのも思い出しました。

2018年4月の最初の新しい理事会で、吉澤会長が私を副会長に指名しました。八碁連活動に造詣が深い理事もおられる中で、私はその指名に少々驚きました。断る理由も見当たらないので副会長役をお引き受けすることにしました。八碁連の多くの会員にあって私は無名のような存在でした。

その後の理事会では、八碁連設立の30周年を記念する冊子の刊行が協議されました。吉澤氏は、この冊子の発行に執念をお持ちであることが分かりました。そして、編集責任者に小生を指名しました。私は過去に拙著の編集などをやっていたので、この冊子の編集には自信がありました。吉澤氏の功績の一つが132頁の「創立八碁連30周年記念誌」の刊行です。

次ぎに、吉澤会長が取り組まれたのは八碁連規約第三条(目的)の改正です。それまでの規約の目的は次のようなものでした。

「八王子市内に居住する高年者が囲碁を通して親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高年者の福祉の増進に寄与することを目的とする。」

この規約は、囲碁を通して市内の高年者の福利や健康を増進するということを強調していることが分かります。

真剣な討議の結果、次のように規約は改正されます。

「八碁連は市民が、伝統文化である囲碁を通じて親睦を図り、健康が維持できるような機会を提供し棋力の向上を目指すとともに、囲碁の啓蒙と普及に努めることを目的とする。」

改正の要諦は、伝統文化の強調、囲碁の啓蒙と普及に貢献するという内容になったことです。それまでの囲碁を楽しむという内向きの姿勢から、囲碁を広めようとする外向きの姿勢に転換したことです。吉澤会長の哲学や矜持が反映された規約になりました。

上述した「八碁連 30 周年記念誌」の中で、吉澤会長は「八王子囲碁連盟の足跡と課題と展望」という玉稿を掲載しています。吉澤会長は、八碁連という大きな組織で何が一番の課題かを問います。それには、各地区同好会の抱えている問題を把握し全体像をつかむことから始め、そのうえで将来の目標を具体的に定めて八碁連の明るい未来像を見つけるという展望です。八碁連は、会員の高齢化や恒常的な会員の減少は極めて深刻な問題であり、何らかの対策が必要であると強調します。

対策の一環として、地区同好会の充実が急務であり基本であると主張されます。女性会員を増やすことが八碁連を活性化することにつながることも指摘されます。恩方囲碁同好会の会長を 8 年間務められ、女性会員や初心者の棋力の向上に貢献されました。自らパソコンやスマホの活用技術を習得され、Email によって各同好会長への連絡や理事に対する指示を積極的に行われました。2019 年 4 月からの八碁連 Web サイトが開始できたのも、吉澤会長がインターネットの活用を強く支持され、背中を後押ししてくださったからです。

2019 年から 3 か年間、私は八碁連会長を仰せつかりました。任務の遂行には吉澤氏の長い経験知と幅広い知識が欠かせないと考え、相談役として補佐していただきました。いろいろな難題を抱えながらも女性囲碁大会を始めたり、八碁連エンブレムを制定できたのも吉澤氏の応援があったからです。

対面での対局がコロナによって妨げられる中、インターネット上で会員同士がいつでも対局できることを奨励され、オンライン囲碁講座で棋譜再生編集ソフト等を使用して双方向で会話したり質問したりしながら、会員を指導されたことも記憶に新しいことです。進取の気性を忘れないことを会員に教えられたような気がします。

八碁連だより 350 号において、「囲碁は国技」という玉稿を投稿されました。

それによりますと、囲碁には国技としての風格があること、女性と男性が同じ条件で戦い男性に勝てる競技であることと述べられています。囲碁のすばらしさは人との出会いで、それを通じて知り合えた多くの人たちが宝になったというのです。「中学生の時に兄に教えられて以来 65 年間も囲碁に親しんできた」と述懐されています。我が国の国技であり伝統文化である棋道と共に吉澤氏は歩まれました。

“吉澤實相談役殿、薫陶と深いご指導をいただきありがとうございました。”

合掌

2022 年 11 月 7 日

